

令和最初の筑前木屋瀬宿場まつりは11月3日(日)に開催されます。「みんなで踊ろう宿場をどり」をキャッチフレーズに、回を重ねて27回目を迎えます。このまつりは木屋瀬が持つ主要な文化的財産を柱として、小・中学生から高齢者まで住民が参加し、町の活性化や伝統継承を目的として企画されています。そして、街の自主的な手作りイベントとして地道に裾野を広げ近郷・近在の市町村との連携など対外的にも大きな成長を見せてきました。7月末に実行委員会を立ち上げ実行委員長を始め役員体制を確立すると共に、総務、企画、広報、運営各部門別に準備を進めていくこととし、これまで4回に亘る実行委員会を開催し、検討を進めてき



昨年の宿場まつりの様子

# 寄せ太鼓

長崎街道木屋瀬宿記念館  
運営協議会 広報部  
北九州市八幡西区木屋瀬  
三丁目16番26号 (〒807-1261)  
TEL 093-619-1149  
FAX 093-617-4949

11月3日は宿場まつり

みんなで踊ろう宿場をどり

上の出仕者が世話人のプレートをかけて終日まつりの成功を期して活動を続けます。まつりの主要な出し物は、木屋瀬宿場をどりの総踊りを中心に、市の消防音楽隊の演奏、筑前各地の伝承盆踊り、木屋瀬中学校吹奏楽部のパレード演奏、小学生の学習発表、幼稚園児の絵画展、歴史探訪スタンプラリー、消防の地震体験、はしご車の試乗、町並み資料館、綱引きや大道芸など数多くが企画されています。加えて街道筋には青空市場やフリーマーケットが出店され、まつりの賑わいに花を添えます。



白熱した綱引きの様子

このまつりの成否は住民の皆さんの「参加」と「協力」に掛かっています。住民の皆さんの物心両面のご協力をお願い申し上げます。木屋瀬宿記念館運営協議会広報部 部長 徳永興紀

総合問い合わせ先  
長崎街道  
木屋瀬宿記念館  
093  
619-1149

## 筑前木屋瀬 第6回 今昔歳時記

紅屋泰助氏(故 柴田泰助氏)の「筑前木屋瀬今昔歳時記」の第6回目です。今回は、「ひろば北九州」平成二十二年七月号に掲載された行事・風物について、前編としてご紹介させていただきます。

木屋瀬の七月は、何と言っても祇園でございます。先月号で「筑前木屋瀬祇園祭」とは昭和三十八年より「夏越の大祇い行事」と「祇園祭礼」を併せ、実行委員会形式で執り行うように為ってからの行事名と、ご紹介致しました。この様な形式となったのは、戦後の社会情勢や当地・木屋瀬の産業経済の衰退により、山笠当番町輪番制による山笠行事が当時、経済的にも人的にも困難な状態となっていたからでございます。従前の山笠当番町制では、山笠の制作から運行まで全てを当番町単独で執り行っていた為、山笠制作費用を負担できない当番町の年は、祇園祭に無くてはならない山笠行事が中止となりました。又、山笠の制作ができ得ても、山笠の運行に必要な人員が揃わず支障を来す当番町もございました。斯かる事態を憂えた当地の先人達は、伝統ある木屋瀬祇園山笠の存続の為、氏子総代会と自治会・商工連盟など地元諸団体で組織する実行委員会形式に依って、木屋瀬全町氏子で山笠制作費用を負担すると共に木屋瀬全町氏子で山笠運行に参加する方策を執り、以来、今年で四十四回目を迎える訳でございます。其れでは、二日間に亘る山笠の様子をご紹介致しますが、先ず、申し上げて置くべき事がございます。宿驛往時の木屋瀬は旧長崎街道筋の本町と新町境を流れる室見川を隔てて、本町三町(本町・中町・下町)だが、江戸末期に新地が加わり本町四町となる)と新町三町(新町・改盛町・感田町)の六町で構成されておりました。が、現在の木屋瀬は住宅・人口の増加に伴い本町六町と新町七町の十三町で構成されています。そこで、今年の祇園は七月の十日(土)から十一日(日)に執り行われます。一番山笠は新町七町青山笠で、当番町は旧街道筋の新町(四十二所帯)。二番山笠は本町六町赤山笠で、当番町は中町から分町した東中町(八十四所帯)が与ります。

祭の当日は町内中に注連縄の結界が張られ、神社境内には奉納灯籠が設営されます。つづく(記念館)

### いろはかるたのご紹介

と 泊れ 泊れ 旅の客

〈泊まれ 泊まれ 旅の客 足も手も つめたかろ セーントン／雪まる かし かんしょうぶ 足も手もつめたかろ セーントン／豆腐 こんにゃく 山芋 生で喰えば があじがじ 焼いて喰えば ほーや ほーや セーントン〉

当地に今も伝わる「子どもゑびす行事」の中の御遷宮(御神幸行列)で唄われる一節です。

ち 町内ごとに 庚申さん

宿驛往時は、町内ごとに庚申様が祀られ庚申の夜は三戸の難を避ける為、各戸主が揃い、庚申講のお座を夜通し務め、町内の伝承や決め事・相談事をする習いでした。昭和の中頃まで続きました。今も当地に残る「話は庚申さんの晩に」の文句はその名残です。

現在、本町方では毎年九月一日、各町内合同(輪番制)で庚申祭を執り行います。新町方では毎年八月二十日、感田町川端に鎮座する庚申様(猿彦神社・興玉宮)で、感田町内挙げて庚申祭を執り行います。

### みちの郷土史料館 第74回企画展 「木屋瀬宿伝統の祭り」開催中

現在みちの郷土史料館企画展示室では、第74回企画展「木屋瀬宿伝統の祭り」(10月26日(土)～12月22日(日))を開催しております。今回の企画展では、木屋瀬の伝統や文化の中でも、特に「お祭り」に注目してみました。福岡県指定無形民俗文化財で、「宿場をどり」としても知られる「木屋瀬盆踊り」をはじめ、「木屋瀬祇園祭」「子供ゑびす」「学神祭」を中心に、町のお祭りの紹介・展示を行なっています。昔から、暮らしたともに受け伝えられてきた町の風習や信仰、歴史や文化を、お祭りを通じて感じることのできる内容です。

### こやのせ座落語会

令和元年11月23日(土)に木屋瀬宿記念館こやのせ座におきまして、「こやのせ座落語会」を行います。出演は北九州市出身でおなじみの林家きく麿師匠です。

開演は14時(会場13時30分)で入場料は大人500円(当日800円)、中学生以下200円(当日300円)、未就学児無料となります。現在、お電話での予約を受け付けております。ぜひ、ご家族そろってお越しください。

### 年越しそば打ち教室

毎年恒例となりました「年越しそば打ち」を今年も開催します。そば打ち名人をお招きして、そば打ちの体験から、そばの保存方法、調理法を指導していただきます。

会場：長崎街道木屋瀬宿記念館  
日時：令和元年12月28日(土)10時～15時  
参加費：一、二〇〇円(実食鴨そば)  
※材料費、7人分のそばが持ち帰れます。  
※追加一、〇〇〇円で別途7人分持ち帰れます。  
定員：先着50名(電話での予約制)  
申込先：長崎街道木屋瀬宿記念館 ☎〇九三二六一九一一四九



### シリーズ 筑前木屋瀬宿 神仏めぐり

#### 第四十七回 須賀神社 祭り歳時記(その二)

文明十二年九月十四日、当時都の連歌師の最高峰と呼ばれていた、飯尾宗祇は、太宰府参詣の途中木屋瀬の大内氏の守護代陶氏の館に立ち寄り、近くの禅寺に泊ると旅日記「筑紫道紀」に記しています。翌日、陶氏の館で歌会が催され、その時詠まれた発句が、

「ひろくみよ民の草葉の秋のはな」 宗祇

この句は、一見庶民を愛すべきとの教訓の歌のようですが、当時の遠賀川河畔に広がる秋の花の風情が眼前に浮かぶような、発句です。さて、遠賀川土手の銀杏の木の近くにある、

「扇天満宮は、観応(1350)以前よりこの地に鎮座され、祭神は、菅丞相「菅原道真公」です。この宮は、従来、久保崎天神と称していましたが、飯尾宗祇が木屋瀬に泊まった折り、夢に男神と称する者が現れ扇を賜る夢を見た。翌日、太宰府に参詣すると、夢ではなく現実に深野筑前守より扇を賜った。正に正夢であったとして、それより、この宮を、扇天満宮と呼ぶようになったと言われ、飯尾宗祇が書いた、国学者伊藤常足が書いた石碑が境内にあります。さて、この宮では、毎年五月に、



学神祭の様子

「扇天満宮祭」と「学神祭」が執り行われています。道真公は学問の家柄の生まれで書や漢学に優れ、日本書紀以下の国史編纂の書もあり学者としても評価が高かった。このことから、学問の神様として崇められるようになりました。又、江戸中期から勃興した、国学(日本古来の道を読む学問)にも大きな影響を与えた。木屋瀬では、毎年新年生が道真公ゆかりの「うめ」「うし」を毛筆で書き神様に掲示して、学業成就を目指し祈念する祭り、「学神祭」が行われ、今年も多く参拝がありました。又、道真公は、政治家としても右大臣まで昇進されましたが、讒訴されて京都より太宰府に左遷され無念な日々を送り亡くなりました。その後、疫病や天変地異が都に起こり、当時の怨霊信仰から道真公の怨霊によるものと信じられ、その怨霊を鎮める為に、太宰府天満宮が建立されました。そのことから、天満宮は、厄払いの神として、又、天変地異を避ける神として、農耕の神として、学問の神として信仰されるようになり、木屋瀬では、往古から現代にいたるまで、盛大に「学神祭」と「扇天満宮祭」が執り行われています。



宗祇碑(昭和57年四十四賀一同奉納の歌碑)

#### 天満宮鳥居を潜る蟻の列 行く川の流れば絶えず宗祇の忌

本町 野口靖彦

### 木屋瀬(十) 続き

木屋瀬には、子供を主とした恵比須祭典がある。十二月の寒の中で十歳の男の子が頭と呼ばれ祭典の頭領となるので、頭の保護者によりお祭り行事の一切が行われるのである。町を二分し各々山笠を建立し恵比須さまに奉納されるのである。

「西へ西へとさして行く、西は最後の弥陀如来アアなむあみだアなむあみだア」と念仏を唱え、あの町この村と寒修業をしていた。十二月の寒気に向かって風雪に向かつての修業であるが「木屋瀬のお恵比須さま、ようこそお出で下さった」



わたしの昔話

とあたたかく迎えられ、私の家にも私の家にもと、木屋瀬子供恵比須神事として迎えられていた。寒念仏修業を終えた子供達は、恵比須堂にこもり、今日に感謝し明日を願い、世間人情を知るための勉強をしていた。

泊れ泊れ旅の客 足も手もつめたから と唱えながら、お恵比須さまの町内巡行にお供をするのである。そして子供達だけの、二台の子供山笠が寒風の町の中を競うように駆け巡るのである。寒さに挑戦するに良き鍛練だと思っ

古くは寒念仏と言って、頭は鉦をたたき加勢人と呼ばれる子供達は袋を提げ、

「こやのせ宿科学フェスティバル」として各種イベントを開催し、みちの郷土史料館で開催した「子どものための北九州と世界の昆虫展」松田勝弘コレクショント(7月13日(土)〜7月21日(日))には小中学生のお子さんが数多く来館され、そのご家族の皆様にも当館を知っていただく良い機会となりました。こやのせ座では、昆虫展の関連イベントとして、地域の合唱の会「いちようの会」の皆様に出演をお願いして「虫の世界」歌とお話しを開催しました。子どもから大人まで楽しく昆虫について学ぶことができる良い機会となりました。また、昔の道具を触って学べる「昔のどうぐ体験」(8月1日(木)〜9月1日(日))を開催。毎年恒例の「こやのせなたなばまつり」(8月4日(土))は、昔あそびや縁日、人形ポードヴィル・ドラによる人形劇、そうめん流しなどを行い、夜には星の観察会も開催し、多くの方に参加いただき、地域を挙げてのイベントになりました。夏休みイベント開催にあたりご協力いただいた多くの皆様に、厚くお礼申し上げます。

### 夏休みイベント 報告

木屋瀬宿記念館学芸員・岩崎 秋沙



### 木屋瀬宿記念館収蔵品紹介「関札 松平肥前守休

関札とは本陣に宿泊する参勤交代の大名や、地方を視察する幕府の重役の名前を書いて掲げる木の札です。宿札とも言われます。その日の本陣に誰が泊まるのかを前もって知らせ、他の一行との間違えを防ぐ意味があり、宿泊する側が札を製作し本陣の表門脇や宿場の入口に掲示されました。

今回紹介する関札には「松平肥前守休 閏三月二七日」と書かれており、万延元(一八六〇)年に肥前佐賀藩の鍋島直正公が木屋瀬で休憩した時に本陣に掲げたものと推測されます。名前の後ろの「休」は「休憩」を表し、「宿泊」の場合は「宿」の文字が書かれます。また、大名の敬称が書かれていないことから、宿場側ではなく宿泊する側が札を製作し、前もって宿場に持ち込んでいたことが分かります。

この関札は、みちの郷土史料館1階に展示しています。江戸時代に木屋瀬を通った人々貴重な資料をぜひ記念館でご覧ください。

### 木屋瀬いろは歌留多大会

令和2年1月12日(日)10時より毎年恒例の「木屋瀬いろは歌留多大会」を開催します。木屋瀬の文化と伝統が織り込まれた、木屋瀬ならではの歌留多に触れる貴重な機会となります。参加者には記念品も用意しておりますので、皆様ふるってご参加ください。



### こやのせ座New Year コンサート2020

令和2年1月25日(土)14時開演(13時30分開場)、響ホール室内合奏団の方をお迎えして今回で8回目となる「こやのせNew Yearコンサート2020」を開催します。どの年代でも楽しめるような幅広い楽曲をご準備くださいます。入場料は大人500円(当日800円)、中学生以下200円(当日300円)、未就学児無料となります。現在、電話での予約を受け付けております。ぜひ、ご家族そろってお越しください。皆様のご来場をお待ちしております。

